

第1章 新市場建設の意義

1 流通環境の変化

転換期にある
卸売市場

これまで、卸売市場は生鮮食料品流通の中心的役割を担ってきたが、流通環境の変化への対応の遅れ、取扱量の減少、市場間格差の拡大等に直面しており、重大な転換期を迎えている。

卸売市場流通を
めぐる変化

グローバル化や情報通信技術の進歩等、社会経済状況の変化は生鮮食料品流通にも大きな影響を与えている。

また、生鮮食料品の生産、流通、小売、消費者のニーズ等、卸売市場をめぐる環境も変化しており、これらに対応した新たな市場づくりが求められている。

(1) グローバリゼーションの進展と情報技術の進歩

規制緩和や生産・流通技術の向上等は、外資を含む大型資本の参入や、生鮮食料品の輸入の増加をまねき、情報通信技術の進歩は、インターネットを活用した新たなビジネスモデルを出現させている。

(2) 生産・供給の変化

生産者団体は組織化・大型化し、価格形成への発言力の強化を図るとともに、多様化する消費者ニーズに対応した生産物の供給・流通に取り組んでいる。

(3) 流通チャネルの多元化

広域輸送網の拡大や低温流通技術の進歩は、市場流通のみならず、生産者からの直接買付やインターネット販売等の流通チャネルを多元化させ、市場外流通を拡大させている。

(4) 小売業界の変化

専業小売店等が減少し、量販店の競争が激化する一方で、新しいタイプのディスカウント型小売業等が誕生するなど、小売業態に変化が生じている。

(5) 食生活の変化

少子・高齢化や単身世帯の増加、ライフスタイルの多様化等は、「中食」や「外食」の増加など、食生活を変化させた。

(6) 安全・環境問題等への関心の高まり

消費者の食の安全性や商品情報への関心が高まり、流通段階における品質表示や温度管理などの安全・衛生面への対策が課題になっている。

卸売市場が
目指すべき方向

社会改革の波は急激であり、卸売市場もこのような社会経済のドラスティックな変化を避けて通れない。

これからの卸売市場は、取引規制や市場業者の許可制度、生産者重視の視点といった、これまで卸売市場を支えてきた仕組みを見直し、競争原理の一層の導入や消費者からの発想も重視した仕組みとすべきである。

さらに、適正な受益者負担に基づく計画的・効率的な施設整備や、多様な整備手法の導入など、市場の活性化を進めていく必要がある。

2 築地市場の課題と新市場建設の必要性

築地市場の 現状と課題

築地市場は、青果・水産合わせて、年間100万トン、金額にして6千億円を取扱う、我が国最大の中央卸売市場である。

都民の台所として重要なだけでなく、取扱量の4割近くを首都圏に供給する、広域流通拠点、集散拠点として全国流通の要の位置を占めている。

しかし、昭和10年の開場当時、都内600万人に供給することを目的に建設された現在の築地市場では、以下のような課題を解決することができない。

- (1) 現在地では、流通環境の変化に対応した物流システムの再構築や、衛生管理の強化、買出人が求める加工・配送等の付加価値サービスの提供に必要な新たな機能を導入する余地が無い。
- (2) 敷地が狭隘なため、輸送手段の変化により増大した物流量に対応しきれず、市場内外で違法駐車や周辺道路の渋滞などを起こしている。
- (3) ローリング工事では、市場機能が長期にわたり低下し、営業への影響が大きいことから、現在地での整備は困難である。

新市場建設の 必要性

築地市場を、次世紀までも見据えた首都圏の生鮮食料品流通の中核を担う市場へと再生するには、情報化、物流の効率化、衛生・環境対策の強化を実現する必要がある。

さらに、生産者から消費者まで、食文化・食情報を発信できる機能や、「外食」「中食」の増加等、食生活の変化に対応できる加工・配送等の付加価値機能の充実が求められている。

これらを実現するために東京都は、平成13年12月、「東京都卸売市場整備計画（第7次）」において、豊洲への移転を決定した。

豊洲は、新市場の建設に不可欠な、大規模用地の確保が可能で、消費地である既成市街地の外周地域にあり、良好な交通条件に位置している、既存の商圈に近く、築地市場との継続性が機能、経営面で保てる等の条件を満たす、最適地である。